

新国立劇場の全国公演の拡充について

(1) 新国立劇場では、「日本中の人とその観客であるべきである」との基本理念のもと、全国公演の拡充も重要な責務と捉え、取り組んでいるところであり、近年は件数もかなり増えている。

(平成 24 年度予定：オペラ 2 回、バレエ 6 回、演劇 9 回、合唱 36 回、計 53 回)

(2) 全国公演の具体的方針

- ① 国立劇場ならではの舞台を期待する各地の劇場、観客の要望に応えるため、可能な限り質の高い作品を安価に提供する。
- ② それぞれの地域の公演ごとに、収支の均衡を図る。
- ③ 全国公演事業は各種の民間団体が実施しているため、新国立劇場の全国公演が民業圧迫とならないよう配慮する。

<全国公演の拡充に当たっての留意点>

・新国立劇場は、民間では取り上げにくい芸術性が高く比較的規模が大きい作品を中心に制作してきた。したがって、これらの作品を全国各地に持っていく場合、新国立劇場の規模・機構を前提とする舞台装置となるため、各地の劇場では受け入れにくい場合や、受け入れに当たって新たに改修コストがかかる場合がある。仕込み、撤収にも時間を要す。また、舞台スタッフについても相当数を必要とする。

・出演者・スタッフを自前で抱える劇団の全国公演と異なり、新国立劇場公演はプロデュース公演であり、その都度、出演者・スタッフを集めてこななければならないので、人件費がかさむほか、スケジュールの確保も難しくなる。

(3) 今後の拡充のための方策

- ① 全国各地の劇場が買いやすい比較的小規模な作品を増やす。
- ② 新国立劇場としての公演水準を維持しつつ、全国公演のコストを下げることができる限り努力する。
- ③ 文化庁「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」事業の活用